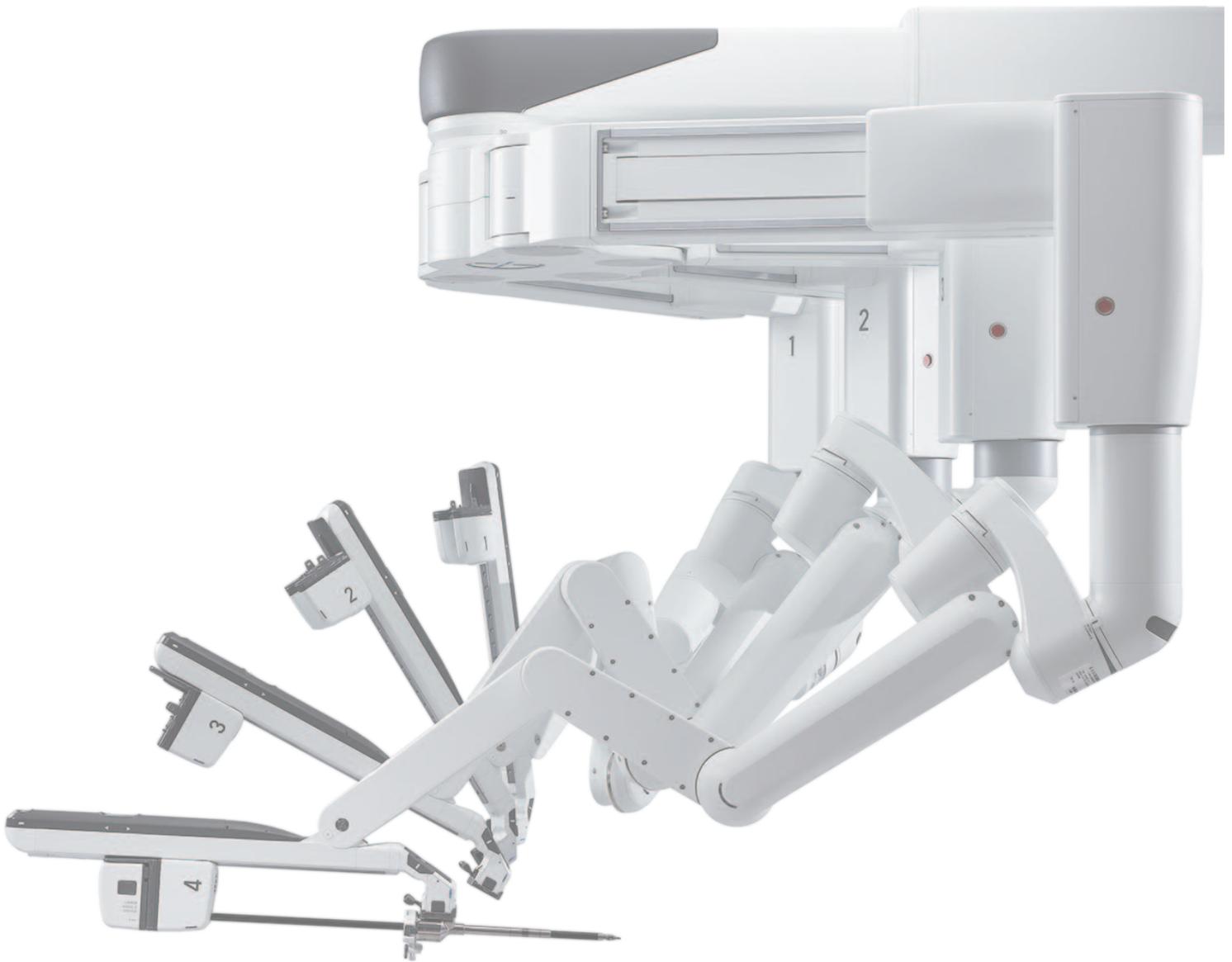




き ら り



SURGERY ASSISTING

地域連携情報誌

vol.36
2022年5月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます





理事(人事・人材開発担当) (兼) 臨床研究・治験センター長 (兼) 加古川中央市民病院 副院長 (兼) 診療部長 (兼) 遺伝子診療部 部長 (兼) がん集学的治療センター センター長 (兼) 緩和ケアセンター センター長 (兼) がん相談支援室 室長 (兼) 外科 主任科部長 (兼) 消化器外科 主任科部長

かねだくにひこ
金田邦彦

平素より地域の医療関係者の皆様方には、大変お世話になっております。

今年も新年度を迎えた4月1日に入職式を行いました。新型コロナの影響もあり、3年連続でいくつかの会議室を使った分散開催でしたが、今年度は初期研修医17名を含む新入医師57名、看護師80名、他診療支援部、事務部門あわせて総勢156名が新たに当院の職員となりました。当日は、新入職の皆さんの当院に対する期待をひしひしと感じ、自分自身も気持ちを引き締めた1日でありました。私の所属する消化器外科も専攻医3名を新たに迎え、総勢17名体制で、「ことわらない」「あきらめない」外科を実践すべく、日々診療に励んでおります。

さて、今回の広報誌「きらり」は手術支援ロボット「da Vinci」の特集です。当院では泌尿器科の「前立腺がん」を皮切りに、消化器外科の「直腸がん」、呼吸器外科の「肺がん」に対し、順次導入してきました。ロボット手術といってもロボットがすべて手術を行うわけではなく、(将来的にはAIを活用して、ロボットがすべて手術を行う時代が来るかもしれない)術者の手の動きをロボットが手助けをするという意味で手術支援ロボットと呼ばれています。ロボットを使って術者の頭の中にある手術の開始から終了までの過程が、忠実に再現することができるようになりました。この領域ではアメリカ製のda Vinciが有名ですが、昨年からは神戸大学が地元企業と共同開発した国産の「hinotori」も実際の臨床で使われており、今後ロボットを用いた手術は外科治療における標準治療の一翼を担うと期待されています。国や学会はロボットを使うことで手術手技の向上だけではなく、都市部とへき地を結んで手術を行う遠隔医療への応用を目指し、ひいては地方の外科医不足の解消につなげようとしています。

現在、消化器外科領域ではエキスパートの資格を持った医師しかロボットに触れることができません(当科では3人が取得)、近い将来にはもっと若手の医師にも手術できる体制を、外科学会が主導で構築しようとしています。

もう一点別項にもありますが、当院は4月に地域がん診療連携拠点病院(高度型)に認定されました。これは東播磨医療圏域のがん診療において、最高水準の医療を提供しているというお墨付きのようなもので、今後その名に恥じないように、診療内容をさらに充実させたいと考えております。

最後になかなか終息の兆しが見えないコロナ禍ではありますが、今後も職員一丸となって地域医療を支えていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

2022年度新任医師一覽



配属	氏名	備考
消化器内科	三村 卓也	科副部長
	中村 真治	専攻医
循環器内科	豊田 純貴	専攻医
	吉田 翔太郎	専攻医
呼吸器内科	黒田 修平	専攻医
	佐伯 悠治	専攻医
	藤本 佑樹	専攻医
腫瘍・血液内科	大幡 真也	医長
リウマチ・膠原病内科	安田 矩明	
	宮本 千晴	専攻医
腎臓内科	川勝 拓也	専攻医
脳神経内科	武田 侑己	専攻医
	土田 愛	専攻医
精神神経科	植田 真司	医長
	谷淵 美野里	専攻医
小児科	豊嶋 大作	科副部長
	平場 裕美	
	越田 早紀	専攻医
	川村 達也	専攻医
	松浦 春香	専攻医

配属	氏名	備考
小児科	鳥井 大輝	専攻医
	平崎 智也	専攻医
	齋賀 佳穂	専攻医
	齊藤 麗	専攻医
外科	中川 大佑	
	宮本 孝平	専攻医
整形外科	加藤 領	
	荒木 祥太郎	
	黒川 昌悟	専攻医
眼科	土橋 一生	
	福島 直樹	専攻医
産婦人科	久保田いろは	専攻医
泌尿器科	中山 慎太郎	
放射線診断・IVR科	上原 栄理子	科副部長
	仲泊 峻	
麻酔科	清水 建之	専攻医
歯科口腔外科	松井 太輝	医長
	八谷 奈苗	
救急科	梅宮 彰子	医長
	木下 裕規	

初期研修医の紹介



谷野 文仁

山口 圭一朗

馬場 圭祐

工藤 大周

中島 智史
神戸大学たすきがけコース

大塚 優治
神戸大学たすきがけコース

大村 晃太郎
神戸大学たすきがけコース

安齋 想

今田 健斗

守田 昂平

中川 凪
神戸大学小児科医育成コース

林 亜佳里

小猿 幸希子

毛利 菜月

竹林 綾香

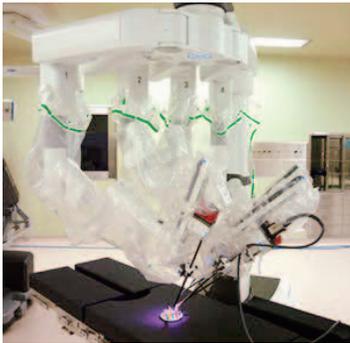
栄田 朋花
神戸大学たすきがけコース

白下部 仁美



da Vinci Surgical System

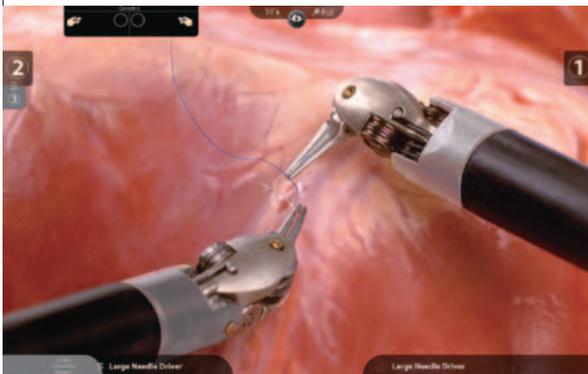
当院では、2017年に最新の手術支援ロボット「da Vinci Xi」を導入し、すでに前立腺がんや消化器がん領域で稼働しています。ダヴィンチは多関節を持つロボットアームと鮮明な3次元画像を有した最先端の手術支援システムで、直接術者の手で持つような感覚で手術を行うことができ、より正確かつ安全な手術が可能です。



■ 患者さんの負担軽減

腹腔鏡下手術同様、患者さんの体に1～2cmの小さな穴をあけて行う、傷口が小さい手術です。

手術中の出血量が少ない、手術後の疼痛が軽減できる、合併症リスクの大幅な回避ができる、周囲の神経などを傷つけてしまう危険が少なく、機能温存が向上といったメリットがあり、早期の社会復帰が可能となります。



■ 鉗子の自由な動き

従来の腹腔鏡手術では手元の動きは逆方向となりましたが、ロボット手術では同方向への自然な動きが可能です。

システム独自の機能で、術者の手ぶれも防止されます。操作が容易で人間の手首や指と同じように操作できます。

■ 高解像度3D画像

従来の腹腔鏡手術では術者は2次元の画像を見て手術を行っていました。

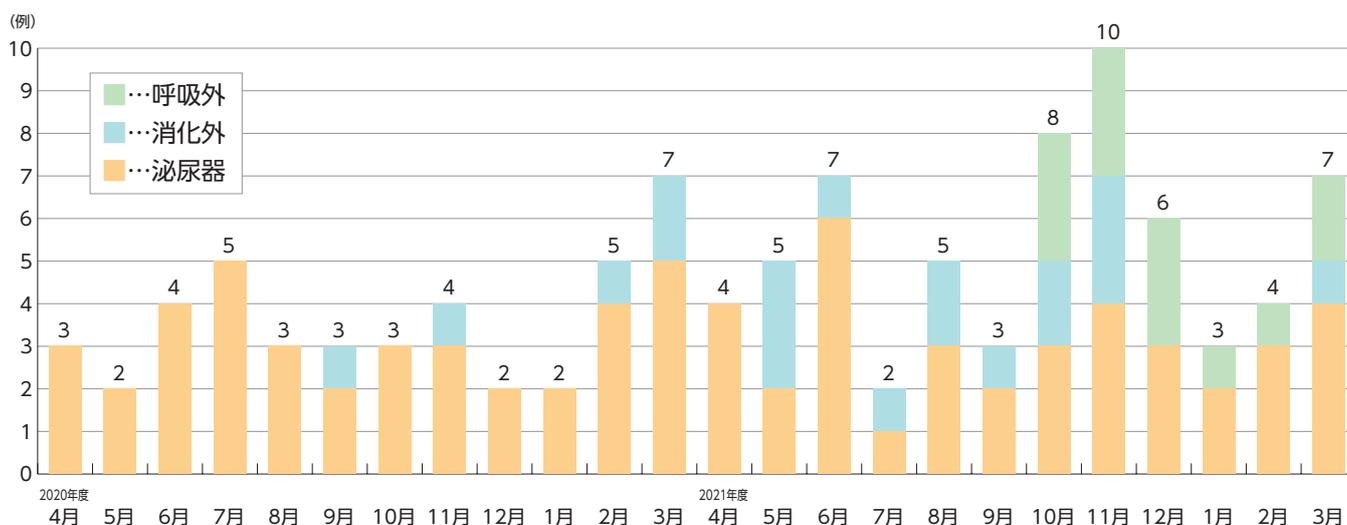
ダヴィンチシステムでは3Dカメラで奥行きのある体腔内を立体的に映しだし、ズーム機能により最大15倍の患部を拡大視野でとらえることが可能です。奥行きを感じながら術中の操作ができるため、より正確かつ安全な手術が可能となりました。

低侵襲外科手術の進化



各診療科での実績

泌尿器科では、前立腺がんに対して手術を行っており、基本的に75歳以下、転移のない早期の前立腺がんが対象となります。「daVinci Xi」は、以前と比べて多関節を持つロボットアームがかなりスリムになり、鉗子同士の干渉が少なくなることが期待され、より正確な手術操作が行えます。地域の先生方には、積極的なPSA検査を行っていただき、異常値の患者さんをご紹介いただけましたらMRI、生検での精査を進めていきます。



消化器外科においては、2019年8月に直腸がんに対してのロボット手術の第1例を施行しました。深部で操作が限定される骨盤の中でも高解像度の画面で、手振れのない操作が可能となります。非常に繊細で緻密な手術操作ができるため、ほとんど出血しない手術ができ、排尿や性功能に関わる神経を温存しやすいなどのメリットがあります。開腹手術と比較して、傷口が小さいため術後疼痛が比較的少なく、体への負担軽減が可能で術後早期回復が期待できるメリットがあります。今後は胃がんにも適応を拡大したいと考えております。

当院には、6名の医師がダヴィンチサージカル認定資格を取得しており、呼吸器外科においても、2021年度から肺がんに対して手術を実施しています。



がん診療連携拠点病院（高度型）認定

2020年度、当院は国指定の地域がん診療連携拠点病院に指定され、2021年度新たに「緩和ケアセンター」の設立と、がん集学的治療センターの組織体制を整備してきました。



さらに2022年4月には、地域がん診療連携拠点病院の中でも、地域で中心的役割を果たすよう、診療実績（2次医療圏内）が最も優れている、放射線治療、緩和ケア、相談支援、医療安全などの提供体制が充実している病院として、高度型の認定を受けました。

今後一層、がん治療に注力するとともに東播磨医療圏域のがん治療を担う役割を果たしていきます。



消化器外科 第3回オンライン症例報告会

6月開催の案内

2021年度、消化器外科において、症例報告会を実施してきました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、地域の先生方との交流も減少しました。まだまだ感染防止対策を継続していく中で、密な連携を維持していきたいと考え、今年度もオンラインによる症例報告会を実施します。



前回までは、症例に応じて紹介元の先生方のみの参加とさせていただきましたが、今回は多くの先生方へご参加いただけるよう、広くご案内します。2022年4月より着任した医師の紹介も含め当院の現状をご報告しますので、多数のご参加をお待ちしています。なお詳細な日程などについては、別途ご案内します。



連携医紹介

当院と連携いただいている医療機関をご紹介します。

えがおのはなこどもクリニック おやざと小児科

診療科：小児科／小児神経科

本年5月2日より高砂市で「えがおのはなこどもクリニック おやざと小児科」を開業いたしました親里嘉展と申します。一般小児疾患だけでなく、てんかんや医療的ケア児の診療も行っております。

私は研修医時代から計15年以上、神経外来のみの期間も含めると医師人生の約8割を加古川で過ごしてきました。この東播磨の地で、研修医として医師のイロハからさまざまな立場で非常に多くのことを学ばせていただきました。感謝いたしております。

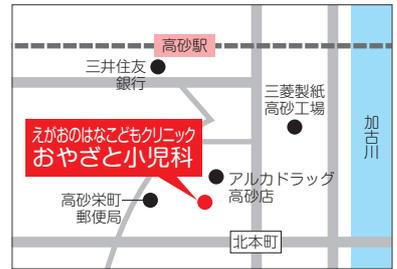
私は小児神経とてんかん分野を専門にしております。専門性と病院での経験をもとに、クリニックではてんかん、発達障害・心身症、重症心身障害児・医療的ケア児など在宅医療を実施している子どもたちやその家族の支援ができればと考えております。今後は小児の訪問診療も行って参りたいと考えています。

加古川中央市民病院の先生方との連携はなくてはならないものです。これから新たな診療連携を構築していきたいと存じます。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。



院長 親里 嘉展 先生



所在地：高砂市高砂町栄町373-1

駐車場台数：174台（共有）

TEL.079-443-6661
FAX.079-443-6662

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	-
午後 14:30~18:30	○	○	-	○	○	-	-

※水曜日、土曜日は12:00まで ※休診日 日曜日・祝祭日

登録医のご案内

当院では、地域の医療機関の皆様と共同して、より良い医療を提供していくために『登録医制度』を実施しております。現在は350名を超える地域の先生方に登録して頂いております。

医療連携をさらに充実させ、地域住民の要望に応じていきたいと考えておりますので、ご登録でない先生方におかれましては、ご検討いただけましたら幸いです。なお、当院ホームページにも登録医一覧を掲載させて頂いております。

登録医の先生方には、

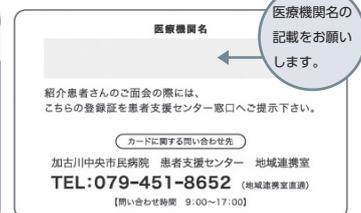
- ①開放病床のご利用・開放病床入院患者の手術、検査の立会・当院の診療録等医学資料の閲覧が可能となります。
- ②当院が主催する学術講演会、カンファレンスなどへ自由に参加でき、当院所有の図書閲覧、複写も可能となります。
- ③インターネット予約をご利用いただけます。

患者面会のご案内

当院への来院時の流れ（ご紹介患者の面会）

- 1) 平日時間内であれば、患者支援センターにある入院支援窓口にお越しください。休日・時間外であれば、総合案内または時間外受付にお越しください。
- 2) 窓口にて上記の開放病床登録医登録証の提示をお願いします。
- 3) 病室に入られる際には、ご持参頂いた登録証を面会カードに入れていただきます。

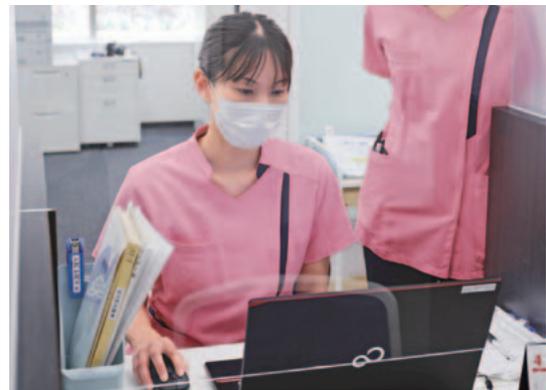
※スムーズにご案内するためにも事前に当院への来院が予定されている場合には、地域連携室に連絡をお願いします。患者さんへの面会は、当院の面会手順にそって対応します。ご面会できない場合もありますのでご了承をお願いします





入退院支援室（入院受付）が 移転しました。

2022年1月より、入院支援室の改修工事を行っていましたが、3月末完成し、4月4日より受付を開始しております。プライバシーに配慮しながらも、対応窓口を増やし、患者さんのスムーズな対応に努めています。現在、新型コロナウイルス感染症の感染防止として、3密を回避するため座席の間隔をあけたり、検温・発熱問診などの水際対策の影響で、待合ロビーが縮小しており、ご迷惑をおかけすることもございますが、何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



地域連携会議の延期

毎年5月に開催しておりました地域連携会議について、今年度も弊院としても開催に向けて慎重に検討を重ねた結果、開催の延期を決定いたしました。つきましては、国内の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、あらためて開催時期を再度検討し、ご連絡させていただきます。

